

不登校の未然防止と教育支援センター支援の充実について

不登校生徒の状況

対象生徒は、昨年度入学して4月下旬から不登校状態になり、保護者もそれに対して強く登校刺激をするのではなく、見守る状況が続いた。教育支援センターへの入室もしたが通室はほぼなく、年度末で退室した。今年度は進級に伴い社会的自立に軸足を置いて対応を再検討し、保護者と本人に外部機関の連携も含めて働きかけを継続している。

具体的な取組

○支援会議の実施

不登校対応コーディネーターを中心に、各学年の教育相談担当、SC、SSW等の他、特別支援教育コーディネーターも入り、現状の確認、本人・保護者への対応と支援の具体的内容について検討を行った。

○定期的な別室指導への登校促進

毎週2日の午前中に開設している別室への登校を促した。別室では学校と家庭の連携支援員が相談対応をするほか、数学の個別学習を行った。これにより基礎学力の定着を図ることで自信が付き、一部授業で教室復帰ができるようになった。



○教育支援センターの活用

外部機関との連携として、教育支援センターにおいて、学習指導員による学習指導を受けることを提案し、今年度から毎週1日、午前中に指導員が家庭に訪問する形で活用している。学習の遅れを取り戻すとともに、活動量が増え、本人・保護者が気力と体力の向上を実感するようになった。

○担任からの継続的な働きかけ

学校とのつながりを継続的なものにすることを意識し、別室登校をした際や電話連絡などで、定期考査や学校行事や職業体験などへの参加を促した。数学の考査だけは欠席しないことを決意するなど学習に対する意欲が見られるようになった。

成果

昨年度は、ほとんど登校できておらず、教育支援センターにも通えなかった状況が、今年度は、当該生徒が前向きに努力するようになり、学習への取組や活動量が増え、教室復帰を考えられるほど改善した様子が見られた。

課題

進路選択の支援により、社会的自立を目指すことについて、当該生徒・保護者も交えて検討していく。